

穂高  
第1回セミナー

穂高町公民館 信州大学人文学部 共催  
信州大学人文学部 安曇野サテライト

日本の社会も地域も、この20～30年の間に大きく変わっています。グローバル化と少子化という大きな流れの中で、地域社会をどのように維持して、生き生きとした人間関係、社会関係を作り上げていったらよいでしょうか。このセミナーでは、世代論的視点から、すなわち地域社会のこれまでの担い手だった世代、これからの担い手となる世代の世代継承という視点から、地域社会の変化と今後の展望を考えてみたいと思います。



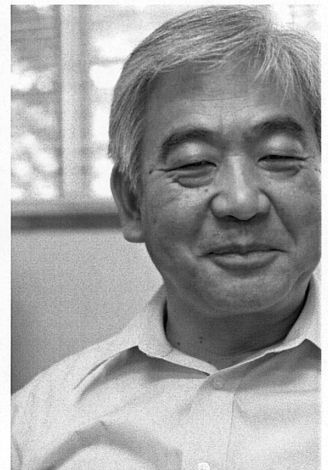
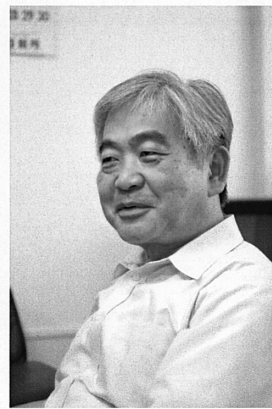
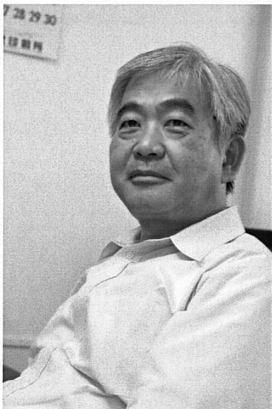
講師 村山 研一  
信州大学人文学部教授

9月16日 金曜日  
18:30～20:00  
場所 穂高町民会館  
聴講無料

## 世代論的観点から見た 地域社会の変化

主催 信州大学人文学部 共催 人文学部後援会、穂高町教育委員会  
開催場所についてのお問い合わせは長野県南安曇郡穂高町教育委員会 0263-82-5970 まで

2005年 穂高町（現・安曇野市） 第1回穂高セミナーの宣伝ポスター



## 村山先生の写真を前に想う

信州大学人文学部 菊池 聡

村山先生の研究に触れ、その活動に刺激を受けることによって、信州という地域の魅力や、そこにあるさまざまな問題に目を向けるようになった研究者は、信州大学にはおそらく多くおられると思います。私自身、その一人であることは間違いありません。

僭越ながら私自身の話をさせていただければ、駆け出しの身として、信州大学に赴任してきたのは約二十年前のことになります。当時の私は、信州の美しくも厳しい自然環境に驚きこそすれ、地域という問題は研究の関心の完全な枠外にありました。当時の私（だけでなく多くの大学人）を考えてみれば、大学という研究教育機関は一種の象牙の塔として地域とは深い関わりをもたないことを是とした意識があったのでしょうか。そんな環境の中での村山先生の活動は、少々大げさに言えば大学人の意識に揺さぶりをかける先端的なものだったと、今更ながら思い起こされます。

そんな私が、村山先生に感化されて地域の問題に取り組むようになった、と書けばいい話として続くのですが、実はそうストレートではありません。村山先生とは、全く意外なところで意気投合して、親しくお話をさせていただくことになりました。それは、ちょうどノストラダムスで盛り上がった世紀末の頃だったのですが、私が手がけていたいわゆるトンデモ話の分析の数々に、意外なことに村山先生も並々ならぬ関心と学識を持っておられたのです。特に、ユダヤやフリーメーソンの陰謀とか、皆神山のピラミッドとか、第一印象では気難しそうだった村山先生が、目を輝かせて尽きることのない話をして下さっ

たのが、今でも昨日のこのように思い出されます。

やがて、村山先生を先頭に信州の地域志向へと舵をとった学部と、そのプロジェクトの末席に私も連なることとなり、地域研究や地域連携事業に参加するようになりました。当初はそれを単なる職務の一つと考えておりましたが、活動を通じて信州の地域の人々や自然とのふれあいの中から、私自身も、やがて深くこの地域にさまざまに惹かれるものを感じるようになりました。村山先生が、最期までその学問的情熱を傾けた信州は、今では自分にとってもかけがえのないものとなりつつあります。それはおそらく私だけではないはずです。当時は、短い任期で何人もの若手研究者が助手として関連講座に配属され、村山先生とともに地域連携や地域研究に立場上かわることになりました。そうした方々は、当初は私と同じく地域という問題を自分のこととはとらえていなかったはずです。その方々が、やがて徐々に変化していく姿を何度も見るようになりました。それは信州の風景の美しさだけではなく、村山先生の人間的魅力に感化されるところが多くあったに違いありません。そう考えると、村山先生の存在は、どれほど大きなものだったか、今、あらためて思い起こされます。

私は専門性の違いから地域フィールド研究に深く参加することは無かったのですが、グラフィック表現を指導していることからか、関連する多くの記録写真やポスター制作などを手がけてきました。十年以上にわたるデータの中の村山先生は、ある時は鋭い表情でパ

ネルディスカッションにのぞみ、またあるときは穏やかな口調で市民に学問の面白さを説き、そして私たち後輩や学生を微笑んで見守って下さっています。そうした記録の中から本誌に再録したのは、信州大学人文学部の地域連携活動の嚆矢とも言える穂高（現安曇野市）でのセミナーの宣伝ポスターです。撮影にあたっては、これから始まる連続セミナーに多くの方に関心を持ってもらうために、ぜひ深い学識を感じさせながらも、親しみやすい表情の写真が欲しいと、面倒な注文をいろいろつけさせていただいたことを覚えています。とはいえ、この笑顔は、やはりトンデ

モ話に花を咲かせながらの撮影だったためでもあります。

これからも安曇野をはじめ、信州の美しい風景と人々の営みに触れるたびに、この村山先生の笑顔が思い出されるかもしれません。それは村山先生を慕う多くの方々にとっても同じ思いでしょう。これからも大学と地域の問題は、さまざまな障害や試練に見舞われることがあるかもしれません。村山先生が真摯に着実に問題を解決して行かれた姿を思い出しながら、とてもそこまでは至らないにせよ、自分にできることを一つ一つ手がけていくことが大切なのだと自分では思っております。